

# ＋ 衛生講座

## レース鳩の感染症予防、 年間プログラム最新版

### ◆◆◆ 鳩レースに勝つための基本事項 ◆◆◆

- \* 良い種鳩(1鳩舎だけではなく、複数鳩舎で実績のあがっている血統の鳩)を導入して、健康状態を良くして、健康な雛を作出する。下記の「種鳩の感染症予防、年間プログラム」参照。
- \* 順調に雛を馴致させ、夏場に鍛え上げる。そして、レース期間に入ったら、休養を第一に考える。
- \* 種鳩は大事に使い、選手鳩は大胆に使う。予防的投薬は大事だが、それでも病気になった鳩や羽根をぶつけて垂らした鳩(舎外運動等で足を引っ張る鳩)は、主力から外す。
- \* 病気になった鳩を治して種鳩に使うべきではない。健康な鳩のみを残していく…。



## 種鳩の感染症予防、年間プログラム

### 配合前(1～2月)

1. 虫下し……塩酸レバミゾール6g/水1ℓ又はピランデル1包10羽、3日連続
2. 抗コクシジウム……スルファモノメトキシシン原末 2.4g/ℓ、5日連続
3. コクシジウム消毒……明治ゾール(引火性があるため、自然乾燥)
4. ニューカッスル生ワクチンの点鼻

### 配合直前

5. 抗サルモネラ・大腸菌……ノルフロキサシン6ml/ℓ、5日連続  
\* ここ数年、死ごもり・嘴うち・雛の死亡が観られた場合  
メトロニダゾール6錠+ノルフロキサシン6ml/ℓ、5～10日連続にする。  
\* これでも効果が無い場合  
アモキシリン6g+ゲンタマイシン4.5g/ℓ、5～10日連続にする。
6. サルモネラ・雑菌・カビ消毒……アストップ散布後、ガスパーナーで乾燥
7. 生菌剤……生菌ビタミン6g/ℓ、3日連続投与後、状態を観察して配合  
\* 1日1回エサにサトウキビ抽出物質含有製剤をまぶして与える(1年中の投薬が望ましい)。  
\* 老鳩には、1日1回リゾープス含有製剤+アミノ酸+ビタミンEも与える(巣引き期間中)。
8. 抗トリコモナス……メトロニダゾール4錠/ℓ、5日連続投与後、飲水器消毒  
\* 種鳩は抱卵時(一番仔・二番仔……それぞれ)に投与すると効果的。
9. 雛孵化後……ホルサワー2g+サンジョイント2g/ℓ 投与飲水、アミノ酸1g/10羽を餌に混ぜる
10. ニューカッスル生ワクチンの雛への点鼻……分離雛、24日齢(一番仔・二番仔……それぞれ)

### 入梅時

11. 呼吸器感染(涙眼・鼻瘤の変色)……酒石酸酢酸タイロシン0.8g/ℓ 3～6日連続

### 巣引き終了後(7月)

12. 虫下し……塩酸リペルコール2g/ℓ又はピランデル1包10羽、3日連続
13. 抗トリコモナス……メトロニダゾール2錠/ℓ、5日連続
14. 飲水器消毒……漂白剤(ハイター等)
15. 抗コクシジウム……スルファモノメトキシシン原末0.8g/ℓ、5日連続
16. コクシジウム消毒……明治ゾール(発火性があるため、自然乾燥)
17. 抗サルモネラ・マイコプラズマ等……ドキシサイクリン1.5g/ℓ、5日連続
18. サルモネラ・雑菌・カビ消毒……アストップ散布後、ガスパーナーで乾燥
19. 生菌剤……生菌ビタミン2g/ℓ、3日連続
20. ニューカッスル生ワクチンの点鼻  
\* 若い種鳩は、NBオイルワクチン0.25ml筋肉または皮下注射する。老鳩は生ワクチン。  
\* サルモネラ菌汚染鳩舎は、通年でサトウキビ抽出物質含有善玉菌(例：スーパーパラピス)を投与する!



# 選手鳩の感染症予防、年間プログラム

## レース前(12月)

1. 虫下し……塩酸レバミゾール6g/ℓ又はピランデル1包10羽、3日連続
2. 抗コクシジウム……スルファモノメトキシシン原末2.4g/ℓ、5日連続
3. コクシジウム消毒……明治ゾール(引火性があるため、自然乾燥)
4. 抗サルモネラ・マイコプラズマ等……ドキシサイクリン4.5g/ℓ、5日連続
5. サルモネラ・雑菌・カビ消毒……アストップ散布後、ガスパーナーで乾燥
6. 生菌剤……生菌ビタミン6g/ℓ、3日連続投与

## 春のレース期間中

7. 免疫増強剤……持ち寄り3日前から前日まで、4g/ℓを飲水投与  
\*持ち寄り日は、真水にする(薬を混ぜた水を与えると、のどが渇くため)。
8. ソノウ炎(嘔吐・緑便)……メトロニダゾール4錠+ノルフロキサシン4ml/ℓを600K終了時、レース帰還後3~4日してから5日連続投与して、直ちに飲水器消毒(ハイター等)。その後、生菌ビタミン4g/ℓ、3日連続。

## 入梅時

9. 呼吸器感染(涙眼・鼻瘤の変色)……酒石酸タイロシン1.6g/ℓ、3~6日連続  
\*呼吸器感染は、鳩→鳩の感染よりも、糞塵が眼に入ったり、吸い込んで感染することが多いため、投薬直後に鳩舎内を消毒する。

## 飛ばし込む前(7月初旬)

10. 虫下し……塩酸レバミゾール2g/ℓ又はピランデル1包10羽、3日連続
  11. 抗トリコモナス……メトロニダゾール2錠/ℓ、5日連続
  12. 飲水器消毒
  13. 抗コクシジウム……スルファモノメトキシシン原末0.8g/ℓ、5日連続
  14. コクシジウム消毒……明治ゾール(引火性があるため自然乾燥)
  15. 抗サルモネラ・マイコプラズマ等……ドキシサイクリン1.5g/ℓ、5日連続
  16. サルモネラ・雑菌・カビ消毒……アストップ散布後、ガスパーナーで乾燥
  17. 生菌剤……生菌ビタミン2g/ℓ、3日連続
  18. NB2種混合オイルワクチン0.25ml……筋肉または皮下注射  
\*NBオイルワクチンが入手できない場合は、ND生ワクチン(3000ドース)を鶏の30倍量4週間隔で2回筋肉または皮下注射する(アルコールは使わない)。
  19. 鳩痘生ワクチン……歯ブラシで皮内接種、アルコールは使わない  
\*ND生ワクチンを注射した場合は、鳩痘生ワクチンを同時に接種しない。4週間は間をあける。
- 飛ばし込む時期……毎日アスタキサンチン含有善玉菌製剤(例:スタミナパラピス)を餌に散布、10羽に1g。
- 夏の酷暑対策……舎外運動後、入舎前に飲水器を外しておく。まず、1羽あたり5g位の餌を与えた後に、レモン、ニンニク、ショウガ等の搾り汁を混ぜた冷水を与える。そして、残りの餌を与える。

## 秋の合同訓練・レース期間中(9月)

20. 若鳩の嘔吐症候群(鳩アデノウイルス感染症様疾患)等の予防……持ち寄り3日前から前日まで、免疫増強剤2g/ℓを飲水投与。持ち寄り日は、真水にする。  
\*合同訓練・レースから帰還後は、鳩がバタバタと鳩舎内で飛びたがるまで、舎外運動をストップする。  
\*餌は1回分を一気に与えずに、3分の1の量をまず与えて、餌の食べ方をじっくりと観察する(特に帰還後3~4日)。餌の食いが悪い鳩がいる場合は、そこで餌をストップする。  
\*複合善玉菌を毎日与えていると整腸にもよく、また、腸内に善玉菌が多く繁殖していると、悪い病原菌が侵入してきても増殖するスペースがなく、結果、病気の予防になる。
21. 若鳩の嘔吐症候群の治療  
上記20を実施しても餌を吐く鳩が出た場合は、メトロニダゾール錠4錠+ノルフロキサシン4ml/ℓを5日間連続投与し、直後に飲水器を消毒する。  
餌を吐いている間は、舎外運動をストップし、餌を少なくする。そして、完全に嘔吐が止まったら、餌を少しずつ増やしながらか舎外運動も始める。1週間毎の合同訓練の場合は、完全に状態が戻らないことが多いため、合同訓練を1回ジャンプして、調整しながら自分で訓練をして次の合同訓練から参加する。
22. 若鳩の嘔吐症候群の再発  
いったん嘔吐が収まっても、再度餌を吐く鳩が出た場合は、制吐剤のドンペリドンと胃腸粘膜修復剤のテプレノンに餌にまぶして与える。